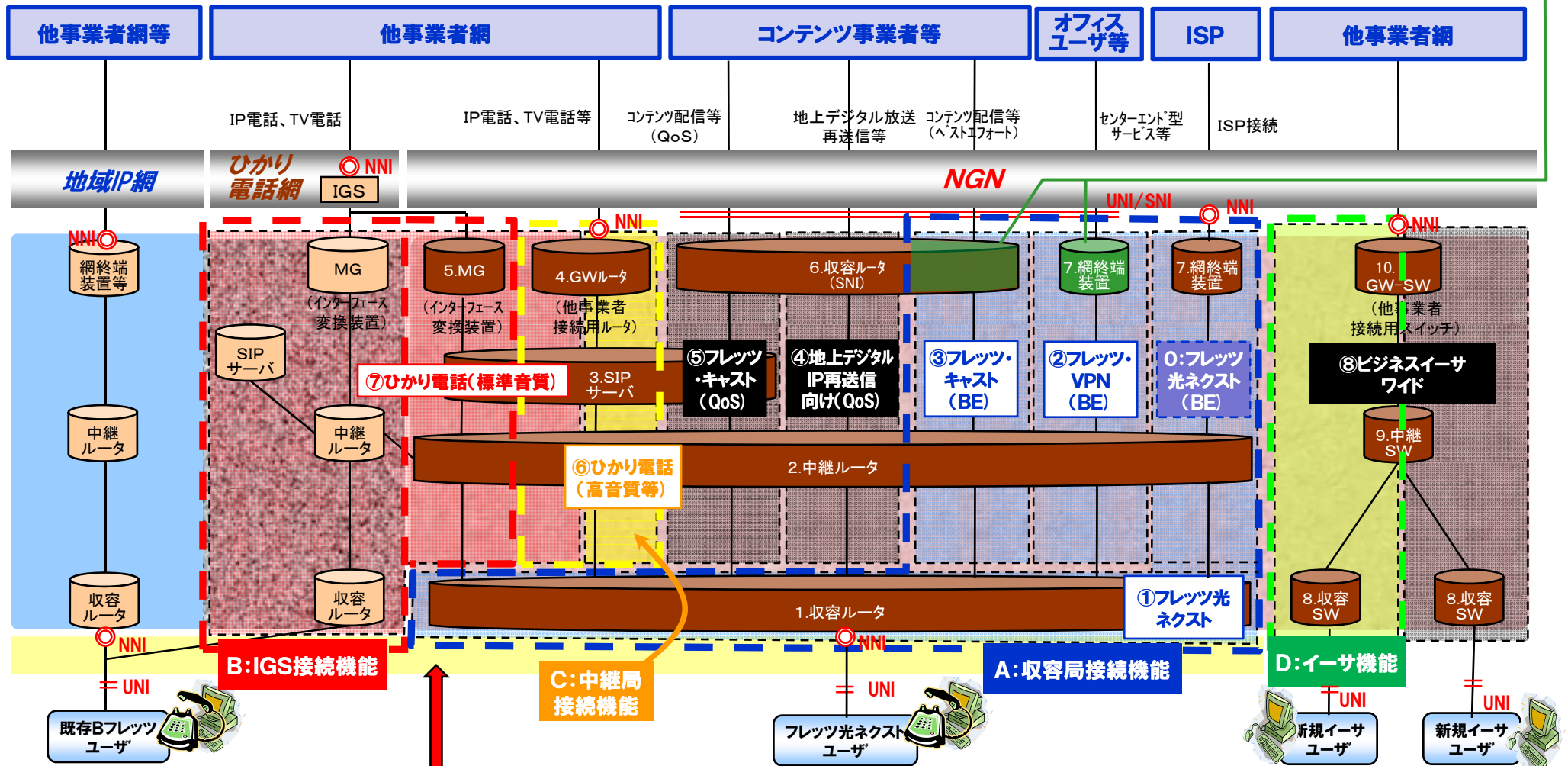


設備・サービス・機能の俯瞰図

資料2

- IGS接続機能は、⑦のコストの一部、中継局接続機能は、⑥のコストと⑦のコストの一部が帰属。
- 収容局接続機能は、①・②・③のコストが帰属。また、イーサ機能は、⑧のコストの一部が帰属。
- ④・⑤のコスト、及び⑧のコストの一部が未アンバンドル機能に帰属。

NTT東西の資料では、
未アンバンドル機能に帰属



- 【凡例】
- 既存設備
 - 新たな設備 (高度化・大容量化)

NTT東西の資料では、
ひかり電話 (⑥・⑦) の自網内呼を未アンバンドル機能に配賦
中継局接続機能に、ひかり電話以外のQoS通信を想定

サービス名のボックスが白抜きのものは、全部又は一部の
コストが、E:その他 (未アンバンドル機能) に配賦されるもの